

調査研究（研修）視察報告書

報告者：蜂須賀喜久好

視 察 日	平成 26 年 8 月 7 日（木）
視 察 内 容	ななお創業応援カルテットについて
視 察 者	蜂須賀喜久好、山崎泰信
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の概要について ・事業開始の経緯、背景について ・市民の声（評価・要望）について ・現在の課題、今後の展開について <p>「ななお創業応援カルテット」結成</p> <p>七尾市で創業を目指す人を応援するために、「七尾商工会議所」、「のと共栄信用金庫」、「日本政策金融公庫」、「七尾市」が業務連携することになった。その名も「ななお創業応援カルテット」。協定を結んだ4者が、起業ニーズなどの情報を共有したり、それぞれの支援メニューを持ちよることで、音楽でいう4重奏のように一体となって応援する。官民一体となった創業支援は、北陸初となる。</p> <p>支援メニュー</p> <p>創業相談会（創業に興味がある人、創業したい人の創業に関する相談） 創業セミナー・創業塾（創業に必要な知識） 補助金支援、資金調達支援（創業に関する国・県・市の補助金や金融機関での資金調達の相談） 事業計画策定支援（資金調達のための事業計画の作成） 経営支援（専門家の派遣など創業後の経営フォローアップ）</p> <p>《七尾市の現状（人口推移等）》</p> <p>○人口 7万人（S60）⇒5.8万人（H22） ⇒ <u>3.6万人（H52推計値）</u> ・自然動態：（H25）出生338人—死亡789人＝▲451人 ・社会動態：（H25）転入963人—転出1248人＝▲285人 ・高齢化率：（H22）29.6%⇒（H52推計値）43.7% <u>著しい生産年齢人口の減少</u></p> <p>○事業所数 5,100（S61）⇒3,600（H24） <u>▲1,500（30%減）</u></p> <p>○従業員者数 3.1万人（S61）⇒2.6万人（H24） <u>▲5千人（16%減）</u></p> <p>○市内総生産（GDP） 2,549億円（H19）⇒2,173億円（H22） <u>▲376億円（15%減）</u> ・第1次産業：36億円（H19）—38億円（H22） = 2億円 ・第2次産業：343億円（H19）—311億円（H22） = ▲32億円 ・第3次産業：2,170億円（H19）—1,824億円（H22） = ▲346億円 <u>▲少子高齢化の流れは止まらず労働力人口が減少</u> <u>▲経済規模が縮小</u> （第1次・第2次・第3次産業ともに厳しい状況） <u>▲企業誘致も厳しい状況</u></p>	

《ななお創業応援カルテットの取り組み内容》

(1)相談窓口の設置及び情報共有

(2)連絡会議（月 1 回開催）

相談案件の情報共有と進捗管理、各事業の課題と対応など

(3)創業相談会

H26年2月～（毎月第4土曜日）

(4)創業応援セミナー

H26年3月22日（土）参加者9名

(5)創業塾

H26年7月26日（土）～12月6日（土）

10回講座（6回目以降、事業アイデアの具体化と創業計画完成コースに分れる）

参加者12名

(6)商店街の空き店舗調査

空き店舗の状況、持ち主の意向、家賃など

(7)PR展示（随時）

七尾商工会議所、のと共栄信用金庫、七尾市など

《七尾市商店街空き店舗等対策事業

シャッターオープン事業 スキーム》

(1)対象者

- ① 1年以上、空き店舗・空き家・空き地となっている物件を使用すること
- ② 業種は、小売業、卸売業、飲食業及びサービス業
（キャバレー、バー等の接待飲食等営業を行う業種を除く）
- ③ 週5日以上、昼間の営業ができること
- ④ 商店街と連携を図ること
- ⑤ 市税を完納していること
- ⑥ 対象区域内での店舗移転でないこと など

(2)対象出店商店街

- ① 一本杉通り商店街
- ② 七尾駅前通り商店街
- ③ 中央通り商店街
- ④ 東部商店街
- ⑤ 和倉温泉商店連盟

(3)対象経費

- ① 内装工事費
- ② 借家料
- ③ 広告費
- ④ 備品購入費 など

(4)補助金交付

補助金額 150万円ただし、飲食関係店舗は 200万円

※3年以内に事業中止など補助金返還の場合あり

(5)審査会

有識者5名以内（会議所、銀行など）

事業計画及び経費内訳（3カ年分）を審査



(本市への反映)

七尾市の審査から金融期間の審査期間が1週間以内と早く、また審査会の決済完了期間が2—3カ月と早く創業の意思が保てる期間に審査結果を出す事に重点を置いている。その結果4月～7月上旬のわずか3カ月の間に10件の許可が審査を通った。岡崎市は毎月100件以上の相談が有るが、現在までに1件開業、審査の許可期間と多様な要件のハードルの高さが開業件数の促進にブレーキをかけていると強く感じる。

本市の中小企業数が2004年から180件以上減少している現状を考えると、開業の意思が保てる支援を行うことが必要と感じる。また国が問題としている空き家対策にも大いに貢献できる施策となる。

調査研究（研修）視察報告書

報告者：蜂須賀喜久好

視 察 日	平成 26 年 8 月 8 日（金）
視 察 内 容	自殺企図者保護事業について
視 察 者	蜂須賀喜久好、山崎泰信

- ・事業の概要について
- ・事業開始の経緯、背景について
- ・事業効果について
- ・市民の声（評価・要望）について
- ・現在の課題、今後の展開について
- ・現地視察

【自殺企図者保護事業（福井県坂井市）東尋坊での人命救助活動】

（実施期間）平成 21 年度～24 年度 （基金事業メニュー）強化モデル事業

（実施経費）平成 24 年度 5,580 千円 （実施主体）福井県坂井市

《事業の背景・必要性・目的》

坂井市内における自殺者数は、平成 21 年以後年々減少傾向にあるが、その中でも特に景勝地である東尋坊は自殺のハイリスク地となっているため、ハイリスク地対策が急務であり、平成 21 年度から NPO 法人に委託して、パトロールの実施による自殺企図者の発見・保護活動により自殺予防対策事業を実施している。



《事業目標 事業内容》

- ①東尋坊（ハイリスク地）における安全パトロール事業
- ②一時避難所の施設管理事業（安全パトロール事業による発見・保護した自殺企図者一時保護）

《事業実施にあたっての運営体制》

- ①全パトロール事業（委託先：NPO 法人）

水曜日以外の週 6 日の安全パトロール NPO 法人に委託し、自殺企図者の発見、相談、保護活動に努めている。

<委託内容：1 日のパトロール時間 4 時間／日、3 人 1 組体制で 1 カ月 25 日間>

- ②一時避難所の施設管理事業（委託先：NPO 法人）

安全パトロールにより発見・保護した自殺企図者を一時的に保護するためのシェルター 6 室を確保している。

① ②委託事業者である NPO 法人「心に響く文集・編集局 理事長 茂 幸雄」では、平成 16 年 4 月から東尋坊に活動拠点として「心に響く おろしもち」と看板を揚げたお餅屋さんを設置した。

祭事に欠かせないお餅は、人と人をつなぐ食べ物としての意味を持ち、活動拠点である「お餅屋」は、パトロールで保護された多くの人にとって自立への道標となっている。

また、発見から相談、保護、自立へと「心に響く」をキーワードとして語りかけて、日々積極的に活動している。

《事業成果、工夫した点、その他特筆すべき点》

安全パトロール事業と一時避難所施設管理事業の一貫した事業を NPO 法人に委託することによ

り、自殺企図者の発見、相談、保護、自立への連携が図られ、年々効果が上がっている状況にある。

<発見・保護者数>

平成 21 年中 59 人、平成 22 年中 73 人、平成 23 年中 60 人、平成 24 年中 48 人=総合計 240 人

<施設利用者>

平成 21 年中 18 名、平成 22 年中 54 名、平成 23 年 46 名、平成 24 年 36 名=総合計 154 人

市では、国の基金を活用した心の健康推進事業で、市民対象の講座、研修及び啓発事業を実施するほか、坂井市・あわら市管内の関係機関で構成する坂井地区自殺予防対策連絡会に参加し、連携体制を強化している。

また、東尋坊（ハイリスク地）での自殺予防対策として、平成 20 年から観光所管課を中心とした「安全で安心な観光地づくり対策会議」が関係機関によるパトロール事業を展開している。東尋坊での自殺企図者は、県外者が多い現状にある。

— 何度も同じことを聞かれていますと思いますが。自殺防止のパトロール活動を始めたきっかけをお聞かせください。

私はもともと警察官で、最後の赴任地がこの東尋坊を管轄（かんかつ）する三国署でした。私は実際に、その現場に出動し、ご遺体の検死をすることも多々ありました。そのたびに、なんともいたたまれない気持ちになりました。そして、<なんとかして、大切な命を守ろう>と、勤務時間外に東尋坊でのパトロール活動を始めるようになったのです。



— 自殺を踏みとどまった人の、その後のケアも大事にされているんですね。

はい、パトロール活動も大事ですが、それ以上に大切なのが保護した後のケアなんです。

— 現在の活動状況について教えてください。

私たちの活動は、当初地元の観光協会からは「イメージを損ねる」と猛烈に反対されて、1 年もたないとささやかれていました。しかし、おかげさまで今年 10 年目を迎えます。少しずつ賛同者も増え、未遂者の再就職のあっ旋をしてくれたり、住居の提供を申し出てくれる人まで現われてきました。また、登録ボランティアは 100 人近くまで増えています。このうち 20 名が 3 人一組となり海岸線でのパトロール活動にあたり、午前中から日没まで、岸壁沿いをくまなく歩き回っています。今日までに保護した人は 416 人（平成 25 年 2 月現在）にのぼり、東尋坊での自殺者の数もここ数年減少しています。

— 自殺しようと考えている人とふれあうとき、どのようなことを心がけていますか。

古い友人が来てくれた、という思いで接することでしょうか。ただ一つ言えることは、お説教や叱咤激励は無用だということです。いくら言葉を尽くして説教しても、相手の心には少しも響かないからです。反対に、相手を追い込んでしまいかねません。

自殺した人の大半は、雨天の日ではなく、空がカラッと晴れ上がった日を選んでいきます。これは何を意味しているのでしょうか。自らの命を絶とうとする彼らは「死にたい」のではなく、「死にたいほど、苦しい」のです。その気持ちを他の誰かに分かってもらいたいんです。心の響く優しい言葉をかけてもらいたいのです。その声なき声に耳を澄ませていくのが私の役目です。

— 人を「死にたい」という気持ちに追い込む原因はなんだと思いますか。

ひと言でいうと、“思いやり”が欠如した現代社会にあると思います。悩みを抱えていても、親身になって聴いてくれる相手がいない。どんなにつらくても、手を差し伸べてくれる人がいない。自ら命を絶とうと思いつ皆さんに共通しているのは深い心の闇に閉ざされた孤独感です。その孤独感が自分を追い込み、やがては死へと向かわせるのです。

生きていく上で、人には無償の愛で包んでくれる存在がどうしても必要なのです。あなたの身の

回りで苦しんでいる人がいたらぜひ手を差し伸べてください。耳を傾けてください。その温かい言葉がその人を救い、ひいては周囲を明るく照らす灯となるのです。

短い時間でしたが有難うございました。

(感想岡崎市への反映)

全国では年間30000人もの方が自ら命を絶たれている。岡崎市においても毎年70人前後の自殺者がある。これは、1年の岡崎市内での自殺だけの数字であり、10年で700人以上の方が亡くなるという大変な問題である。今回調査した坂井市の東尋坊での自殺者は、県別では愛知県が1位の56名 2位大阪40名 3位石川28名 4位東京25名 5位京都24名となっており、驚きを感じずにはいられない。岡崎市は平成23年に緊急自殺予防を発表した。本市は保健所を有している市で心のホットライン、総代組織、理容店、民生委員等ゲートキーパ講習も力を入れているが、小、中学校での心の教育、家庭での会話を持つ文化の構築、心の悩みに気付く社会を構築していかなければならない。

10年で700もの家族が不幸になっている現状を思うと行政が思い切った施策を講じなければならぬと考える。

調査研究（研修）視察報告書

報告者：山崎 泰信

視 察 日	平成 26 年 8 月 9 日（土）
視 察 内 容	敦賀駅交流施設「オルパーク」について
視 察 者	蜂須賀喜久好、山崎泰信

<敦賀市の概要>

環日本海地域の広域交流都市。
県の中央南部に位置し、古くから貿易拠点となっている。
敦賀港を中心に、陸路も都と北国を結ぶ要働として発展。

<総合計画の策定状況>

2011 年～2020 年

<将来都市像>

世界をつなぐ港まち・みんなで拓く交流拠点都市敦賀

<主要プロジェクト>

敦賀駅舎および駅周辺整備（06 年度～） 中心市街地活性化計画（09 年 12 月～15 年 3 月）
金ヶ崎周辺整備構想（12 年度～）

<敦賀駅交流施設オルパーク>

建物名称 敦賀駅交流施設オルパーク（愛称：オルパーク）

建築面積：764.47 m²

延床面積：1.161.54 m²

1F：760.29 m²

2F：401.25 m²

構造規模：鉄筋コンクリート造 2 階建て

総事業費：約 11 億円

事業期間：平成 21 年～25 年

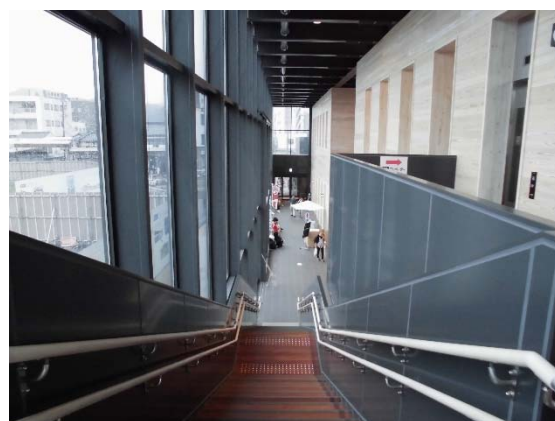
主な施設

1F 市民交流スペース（休憩所） 観光案内所 ギャラリー 店舗 ATM トイレ

2F 多目的室 休憩所 授乳室

開館時間：4 時 30 分～23 時 30 分

オルパークは港のまち敦賀の「交流の場」「情報発信の拠点」「おもてなしの場」として多くの市民に利用できる施設となっている。



<感想・岡崎市への反映>

1F に入るとまず吹き抜けとなっており、屋上に設置されたトップライトからも明るい光が入り、広く感じる心地よいスペースがある。市民や来訪者の交流や待ち合わせの場所として最適である。今回は展示会とアクセサリーの即売会として利用され、多くの人を訪れていた。

2F は多目的室となっており各種のセミナー、入場管理したい展示会など使いやすく感じた。ほかに映画、カラオケ、音楽ライブなどもできるようになっている。

岡崎市も駅前の整備をしているところであり、名鉄のビルも近々改修や建て替えがあるであろう。その時には、このオルパークを参考にして市民が集まる楽しい空間ができるよう要望していきたいと思う。

